

# 平成29年度 【ダイジェスト版】 全国学力・学習状況調査における香美町の調査結果のまとめ（概要）

香美町教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査は、香美町における児童生徒の学力や学習状況を分析・把握し、本町の教育施策の成果や課題を検証し、その改善を図るとともに、各小・中学校における児童生徒への教育指導の充実や学習・生活状況の改善等に役立てることを目的とする。

なお、本調査において測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面である。

### (2) 実施期日 平成29年4月18日（火）

### (3) 調査実施校数及び人数

- ・小学校6年生：10校 151人
- ・中学校3年生：4校 167人

### (4) 調査内容

- ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）
  - (ア) 主として「知識」に関する問題（A）
  - (イ) 主として「活用」に関する問題（B）
- イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - (ア) 児童生徒に対する調査
  - (イ) 学校に対する調査

## 2 本町の状況

### <教科に関する調査の状況>

#### 【調査結果の分析の基準】

全国平均正答率を基準とした時の割合	全国と比較した時の表現
+5.1%以上	上回る
±5.0%以内	同程度
-5.1%以下	下回る

### ① 小学校に関する状況

教科等		香美町の結果
国語	A（知識）	同程度
	B（活用）	同程度
算数	A（知識）	同程度
	B（活用）	同程度

### ② 中学校に関する状況

教科等		香美町の結果
国語	A（知識）	同程度
	B（活用）	同程度
数学	A（知識）	同程度
	B（活用）	同程度

### ③ 教科ごとの調査の状況

#### 【調査結果の概略】

#### 小学校

- (国語)
- ・正答、誤答、無解答の各割合や領域ごとの正答率の割合、正答数の児童の割合とも、全国と同様の傾向を示している。
  - ・B問題における記述式の問いに対して、やや課題がみられる。
- (算数)
- ・「数量関係」、「図形」の領域の問いに対してやや課題がみられる。
  - ・数量や図形について理解したり、理由を記述したりする問いにやや課題がみられる。

#### 中学校

- (国語)
- ・いずれの領域においても、全国の正答率をやや上回っている。評価の観点別正答率も同様の傾向にある。
  - ・問題形式では、B問題の選択式にやや課題がみられる。
- (数学)
- ・「資料の活用」を除く他の領域は、全国の正答率をやや上回っている。
  - ・正答、誤答、無解答の各割合や領域ごとの正答率の割合、正答数の生徒の割合とも、全国と同様の傾向を示している。
  - ・数学的な表現を用いて理由を説明する記述式の問いにやや課題がみられる。

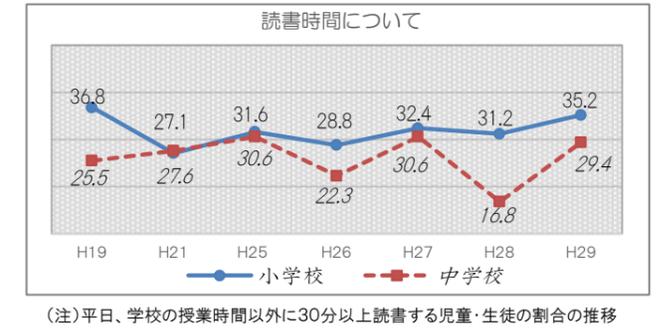
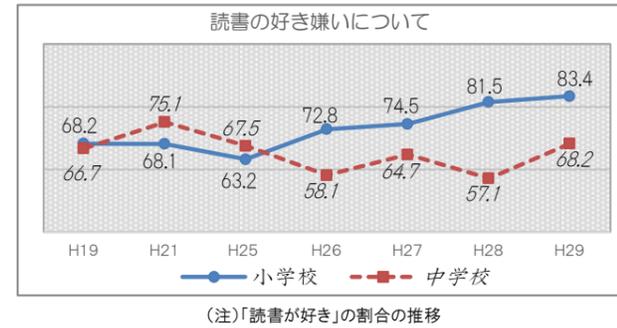
#### 【調査結果の概要】

- 香美町の正答率は、全国と比較して、いずれの教科においても小学校、中学校とも「同程度」である。同基準により兵庫県と比較した場合も「同程度」である。
- 「主として知識」（いわゆるA問題）と「主として活用」（いわゆるB問題）との正答率を比較した時、「主として知識」の正答率の方が、「主として活用」を上回り、昨年度までの調査と同様の傾向を示している。



### <児童生徒質問紙に関する調査の状況>

#### ① 【読書活動について】（「3つの町民運動」関連） [単位:%、以下同様]



- 「読書時間」と正答率のクロス分析では、1日当たり、読書時間と正答率の関係については、有意な差はみられないと考えられる。（「まとめ」本体掲載のクロス集計資料参照）
- 読書好きの児童生徒が増加しつつある。また、読書時間についても微増傾向にある。
- 小学校・中学校とも「3つの町民運動」における「読書」の取組において、一定の成果が現れつつあると考えられる。



#### ② 【将来の夢や目標について】（キャリア教育推進関連）

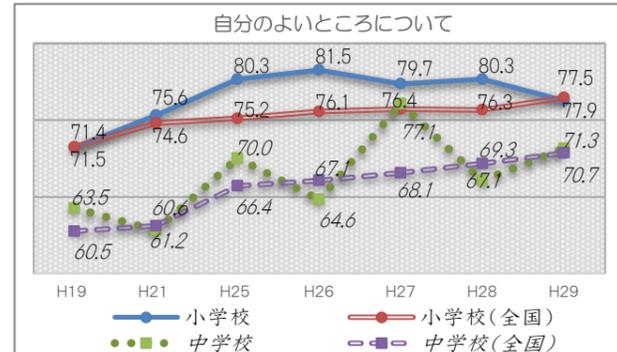


- 平成29年度は、小学校、中学校とも昨年度よりも増加している。
- 「将来の夢や目標を持っていますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、児童では80%台程度で推移している。一方、生徒では70%前後で推移している。
- 今後とも、校種間の連携を図りつつ、キャリア教育の推進体制の整備を図り、児童生徒が、社会の変化を乗り越え、高い志や意欲を持つ自立した人間として、未来を切り拓いていく力を身に付けることができるよう取り組んでいくことが求められる。

(参考)第2次香美町総合計画における施策指標では…

	平成32年度
小学6年生	95%
中学3年生	80%

#### ③ 【自尊意識について】



- 平成29年度は、小学校はやや減少しているものの、中学校は昨年度よりも微増している。
- 「自分には、よいところがあると思いますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は、小学校児童では80%程度で推移している。一方、中学校生徒では70%前後である。
- 児童に比べて、生徒の割合が低いこと、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」などと回答している者が、それぞれ20%、30%程度いることが課題である。
- 授業や学校行事など、様々な機会や場を通して、子どもたちの成功体験を価値付けし、達成感や成就感を持たせることが大切である。

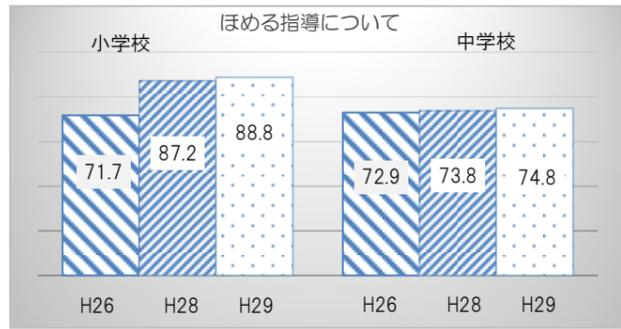
#### ④ 【ふるさと意識の醸成について】（「ふるさと教育」推進関連）



- 児童生徒とも、「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合は高いが、児童の方が生徒よりも高く推移している。
- 平成29年度は、児童はその割合はやや低くなっているものの、生徒は高くなっている。
- 小・中学校とも、「ふるさと教育」の取組成果が浸透しつつあることがうかがえる。
- ※「今住んでいる地域が好きですか。」(平成19年度調査)の問いに対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童(小学校6年生)生徒(中学校3年生)の割合は次のとおりである。

児童	84.8%
生徒	73.1%

⑤【教師が児童生徒のことを認めることについて】（「ほめる指導」「認める指導」関連）

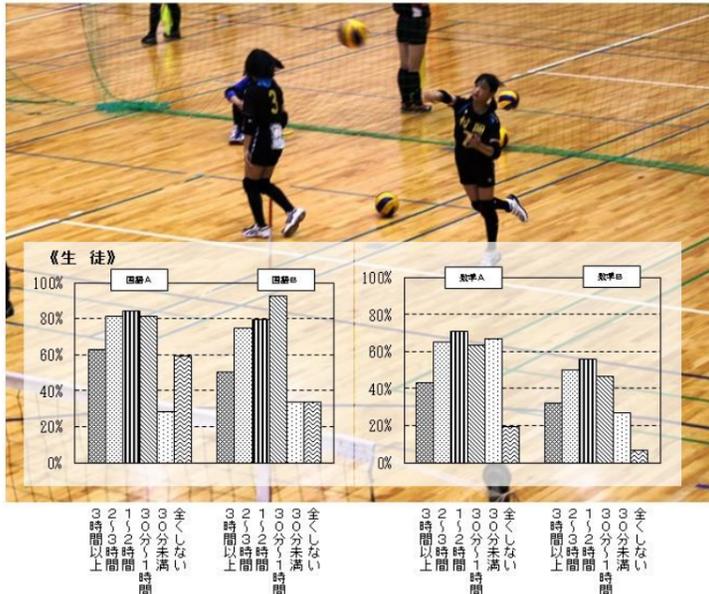


- 小学校・中学校とも、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」と回答している児童生徒の割合は、年度を追うごとに微増傾向にある。
- 「香美町教育の重点」に示された「ほめる指導」「認める指導」の推進が浸透しつつあることがうかがえる。
- 今後とも、その充実を図り、児童生徒内の発的学習意欲の向上に繋げる取組が求められる。

<児童生徒質問紙と学力のクロス分析から>

① 部活動実施と正答率の状況について

【質問番号】 中 (21) 【質問事項】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしめますか（新規）



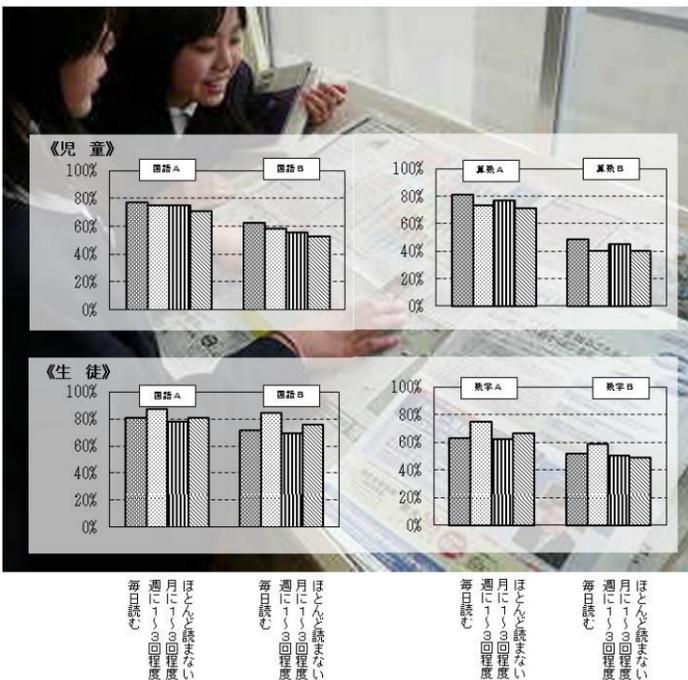
【分析及び考察】

- 国語A、数学A、数学Bにおいては、1日当たりの部活動の実施時間が「1～2時間」と答えている生徒の正答率が最も高い。
- 国語Bにおいては、1日当たりの部活動の実施時間が「30分～1時間」と答えている生徒の正答率が最も高い。
- 3時間以上、部活動をしている生徒の各正答率は、低い傾向にある。
- 文部科学省は、「部活動と正答率の因果関係は分からない。」とコメントしているが、本町においても同様と考えられる。
- 兵庫県では、生徒への過大な負担を考慮して、土・日曜日、祝日における練習等についても特段に留意するよう各学校に求めるとともに、「いきいき運動部活動」啓発リーフレットの発行や「ノー部活動デーの設定」、定期的な「運動部・文化部練習実施状況調査」の実施などの取組を進めている。
- 本町においても、今回の調査結果やこれらの取組を踏まえ、学校教育活動の一環として、生徒にとって意義ある部活動にしていくことが求められる。



② 「新聞を読むこと」と正答率の状況について

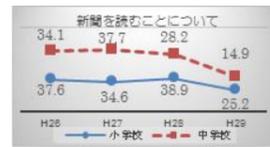
【質問番号】 小 (45)、中 (47) 【質問事項】 新聞を読んでいますか



【分析及び考察】

- 国語A・Bでは、児童生徒とも「毎日読む」「週に1～3回程度読む」と回答しているの方が正答率が高い傾向にある。
- 算数A・Bでは、「毎日読む」と回答している児童の正答率が最も高い。
- 数学A・Bでは、「週に1～3回程度読む」と回答している生徒の正答率が最も高い。
- 新聞を読む頻度の違いはあるものの、「新聞を読むこと」が、日々、活字文化にふれ、論理的に考えたり、思考したりする機会となっていると考えられる。

- 「毎日読む」「週に1回～3回読む」を合わせても、過去3年間、いずれも40%に満たない程度であったが、平成29年度は、さらに減少傾向にある。
- 教科の調査結果とのクロス集計では、新聞をよく読んでいる児童生徒ほど教科の正答率が高い傾向にあり、日常生活の中で新聞の活字に機会あるごとに触れたり、新聞を日々の授業実践の中で活用したりしていくことが求められる。



3 今後の取組の方向性について

学校では

魅力ある授業づくりを！

～「学ぶ授業」から「学び合う授業」への転換を図る～  
児童生徒の「学びに向かう力」を高めるためには、指導者は子どもたちの実態に学び、学力や学習状況の把握に基づく、きめ細かな学習指導に取り組むことが大切です。



学びの連続性のある取組を！

～小中連携、小中一貫化の取組を通じた交流の質の高まりを図る～  
子どもたちの学びの連続性を保障するためには、校種間の枠を越え、義務教育9年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことが大切です。

小規模校ならではの特色を生かした取組を！

～「学校間スーパー連携チャレンジプラン」の充実を図る～  
小規模校のよさを生かし、きめ細かな指導をすすめるとともに、小規模校の課題を克服し、子どもたちの主体性、望ましい競争心などを育てることが大切です。そのために、「学校間スーパー連携チャレンジプラン」に取り組み、多人数の学習集団や複数教員による複眼的な指導により子どもたちの学力や人間関係力を高めていきます。

<授業実践のポイント>

- 「めあて・学習課題や学習の流れ」の提示、「振り返り」活動を取り入れる。
- 新学習指導要領改訂のポイントを踏まえるとともに、指導形態や指導方法の工夫改善を図り、授業の展開の中に、「書く活動」、「発表や話し合う活動」などを取り入れる。
- ICT機器の活用を図ったり、体験的な活動などを取り入れたりする。
- 「ほめる指導」を大切にする。

<実践のポイント>

- 中学校区で「目指す子ども像」を共有し、合同研修会などを通して、指導方法や、指導体制の工夫改善を図る。
- 9年間を見通したカリキュラムづくりや授業研究や研修会、乗り入れ授業などに取り組む。
- キャリア教育の視点から「家庭学習のきまり」を作成するなど、中学校区で学習への目的意識を持たせる系統的な指導をすすめる。

<実践のポイント>

- 事前、事後の打合せや研修を充実させ、他校の教員の実践からも学び合うなど、自らの授業改善に生かす。
- 取組成果や課題の可視化を図り、次の取組につながる評価などについて検討する。

家庭、地域では

家庭は子どものよりどころ、すべての教育の出発点  
地域の子どもは地域で育てる機運を盛り上げよう！

子どもたちが安心して学びに向かうためには、学校にとって家庭や地域の協力は不可欠です。家庭で読書や家庭学習などに積極的に取り組んだり、家の人と学校の出来事について話をしたりする児童生徒ほど、学力・学習状況調査の正答率が高い傾向にあります。

また、地域には学校での学習につながる教育・学習資源や人材が豊富です。地域に学び、子どもたちのふるさと意識を醸成していくことは、将来の香美町を支えていくためにも大切です。「オープンスクール」、「学校版教育環境会議」など、様々な機会や場を通して、学校と家庭・地域がいっしょになって子どもたちを育てていきましょう。

<実践のポイント>

- 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）の習慣化
- 家庭学習の習慣化（「ながら勉強ゼロ」など）
- 家庭で読書に親しむ環境づくり（「親子で読書」「あった家読書」など）
- スマートフォンなど情報通信機器利用に関するルールづくり
- 子育て、しつけの中での「ほめる」、「認める」の実践
- 地域行事への参加などを通して「ふるさと意識」の醸成
- 「あいさつ運動」の推進や「ふるさとものしり博士」などによる学校支援等

行政では

学校・家庭・地域への支援を！

教育委員会では、「ふるさとに学び 夢や志を抱き ふるさと香美を大切に作る人づくり」を目指し、「香美町教育振興基本計画」や「香美町教育の重点」に基づき、香美町の教育を推進していきます。そのために、各学校の教育充実を図るとともに、家庭・地域での様々な取組を支援していきます。

<各種研修会の実施>

- 各種研修会の実施
- ホームページ、町広報誌などによる情報提供
- 各種事業の実施（ふるさと教育交流会、ふるさと給食試食会、ふるさとおもしろ塾など）
- 学校等の施設設備など、教育環境の充実等